【短篇集】ぼっちな神の原作介入～おまわりさん、こっちです～

秋月　実

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。

この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

【短篇集】ぼっちな神の原作介入～おまわりさん、こっちです～

【Ｎコード】

Ｎ８２０７Ｙ

【作者名】

秋月　実

【あらすじ】

はじめまして、僕はうぉっち。時を司る神です。どうか一緒に遊んでください。わかってる。人間に力を与えて戦わせればいいんだよね。僕も出来るよ！　だから仲間に入れてください。ずっと見ていたから、ルールは知ってるよ。だいじょうぶ。

01　中ボス「おまわりさん、こっちです」

ここは、火竜泉。
広く、セキュリティがしっかりしていて、その割に値段も安め。非常に人気のある温泉だ。
少し大きめの仕事を終えた時はいつも、少し背伸びをしてここに出かけることにしていた。
しかし、今回は、いけ好かない奴ら……神に愛されているとしか思えない才能の塊の奴ら……と一緒になってしまった。
わざと背を向けているからわからないが、ねっとりとした視線はきっと奴らだろう。
……早々に上がるか。
瑣末な贅沢を邪魔された私は、腹を立てながら、更衣室に出る。
ロッカーには、魔具がついている。人の魔力を覚えて感知するこの魔具のお陰で、貴重な装備品も安心してロッカーに預ける事ができるのだ。
私はロッカーについた魔具に人差し指を乗せ、ロッカーを開ける。

……新品の装備品と下着が入っていた。

困惑する。偶然魔力の波長が同じ人間のロッカーを開けてしまったのか？
だが、装備品の上には驚愕すべきものが乗っていた。
私の財布だ。

書いてある名前も中身も確認した。間違いなく私のものだ。
私は、困惑してロッカーの中身を見る。
そして、状況を確認した。

1. 新品の装備品と共に私の財布が入っている。
2. 新品の装備品は私が前から欲しいと思っていたものだ。
3. 粘着くような視線を感じた。
4. 私は男である。
5. 最近、よくなんとも言いようがない違和感を感じる。

ぞっと私の背筋を怖気が走る。
いや、まさかそんな。
そうだ！　私を陰ながら応援しようというスポンサーが！　……で、そいつが下着を持っていったのか？
いや、きっと服を間違えたんだ！　……それはないだろう。
私を事を何らかの理由で探っている者！　なんで装備が新品？
間違えて服を汚してしまって、それでお詫びに。……私はすぐ温泉から上がった。買いに行く時間はなかったはず。
他の人間と間違えて！　財布に名前書いてあるよな？
嫌がらせ！
そうか、嫌がらせだ！　きっとこれはあいつらの嫌がらせに仕方ない。
残念だが、それは成功したようだ。
嫌がらせか。
そうだ、嫌がらせだ。
ずいぶんと金の掛かった嫌がらせだが……、あいつらならやりかねん。
でも怖いから確認するのはやめておこう。
今日はこれを着ていくしか無いだろうが、怖いから売ってしまおう……。

下着は履かない事にする。

「なんだ？　リィンティル。ロッカーを見たまま硬直して」

「ふわあああっ！？」

私は驚いて、変な声を出してしまう。しかも相手は憎々しい、才能に愛された男、レイバードだ。

「なんだよ、その声！　お前、意外に面白いな！　あれ？　……お前、風呂にはいる前にこんな服着てたっけ？」

「……違う」

「なんだ、人のロッカー開けちゃったのか？　なんて偶然。鍵掛け忘れた奴がいたのかな。無用心だな、財布までである」

「……一番上の財布は私のだ。名前も書いてある」

「……」

「……」

「どうしましたか、レイバード？」

「なんだ。何かあったのか」

レイバードの仲間達がよってたかって寄ってくる。晒し者みたいになるのはごめんなので、私は急いで否定した。

「大丈夫だ。問題ないからあっちへいけ」

「いや、問題ないって事はないだろ？　装備は良くなっているようだが、でも泥棒じゃないか」

レイバードが私を気遣う。しかし、それはいらぬ気遣いだ。心の気遣いは、そっとしておいてくれる事だと私は思う。

事情を聞き、あろうことか調査を始めようとまで言い出したレイバード達を牽制し、手早く下着以外を身につけた。

うう、スースーする。

心配そうな眼差しが不快だ。

そこへ。男湯の控え室へ、神に愛されたとしか思えない凄まじい美女が飛び込んできた。

襟首をひっつかまれて、これまたレイバード達に匹敵する色男が連れてこられている。

当然、場は騒然とした。

私はそいつらに見覚えがあった。新参者で、かなり腕がいいが馬鹿できもいと言われている冒険者。女がユウで、男がカオルと言ったか。

ユウはカオルをほうり投げ、床に投げ出されたカオルのフードを見事に剣で縫いつけた。

そして、私を射ぬくような目で睨み、ジャンプする。

私はそれよりも、カオルが落とした袋のばら撒かれた中身……。

俺の装備品と下着にしか見えないものに目が釘付けだった。

それでも条件反射で構える私達。

カオルは三回転した後、地面に両手と頭をぺったりとつけ、叫んだ。

「もうっっ――しわけありませんでしたぁぁぁぁぁっ！！」

どうやら、土下座をされているらしいと思いいたり、俺は戸惑った。

「うちの姉……兄が！　兄が！　このバカ兄が！　お怒りは重々承知しておりますが、どうか！　どうか、警察沙汰だけはご勘弁を！　ほらカオルね……カオル兄！　お前も謝れ！　だ、大丈夫です！　下着は顔にかぶる前に救出したので、多分履いても問題ないです！」

「全力で遠慮する」

顔にかぶるって何。

私は恐怖に体を震わせる。

レイバードがさり気なく私をかばった。

「……カオルってホモなの？」

「大丈夫！　わかってる。イエスやおい、ノータッチ！」

「わかってねぇよぼけっ！　あ！　れ！　ほ！　ど！　見るだけにしとけって言っただろ！　リィンたんはセファリーナたんと結ばれる運命なんだよ！」

「そんな！　私はセファリーナたんより、レイバード派なんだけど。ライバルの間に燃え上がる恋ハァハァ」

「アホかァァァァ！」

ユウがカオルをぐりぐりと踏みつける。

「とにかく、どうかお許し下さい！」

意味不明の事を叫び、血の繋がっていない、愛しい妹の名前を知っている謎の冒険者に恐怖を覚え、二、三歩下がる。

「……お知り合いですか？」

「会ったのは今が初めてだ」

「恐ろしいな。大丈夫か。お前妹と二人暮らしだろう？」

心の底から心配される。

しばらく騒いでいると、温泉の管理人が警察を連れてやってきた。

「おまわりさん、こっちです！」

「またお前らか！　ユウは男湯侵入、カオルは窃盗の罪で現行犯逮捕する！」

「ああ！　ごめんなさいおまわりさん！」

「きゃー！　やめて！？　ゆるしてリィンたん！」

喧騒が去った後、レイバードはためらいがちに切り出した。

「リィンティル。お前、俺のパーティにしばらく入らないか？　アイツら、凄腕って話だし、厄介だぞ。俺も名前知られてたし、無関係じゃない」

「大丈夫でしたか？　災難でしたね」

「まあ、新しい装備が入ってラッキーと思っておけ！　ガッハッハ！　……アイツらについてはよく調べておく」

私はその言葉に、思わず頷いた。背に腹は代えられない。

これが、かけがえの無い仲間を手に入れるきっかけとなるなんて、その時の私は思いもしないのだった。

０１　中ボス「おまわりさん、こっちです」（後書き）

リィンティル：後の中ボス。
ユウ：うぉっちの信者。ＴＳチートオリ主。
カオル：ウォッチの信者。ＴＳチートオリ主。
レイバード：漫画「魔術師物語」の主人公。

02　参謀「おまわりさん、こっちです」

「サザード……一緒に寝てくれないか」

「どうしたんですか、急に」

言いづらそうにするリィンティルに、サザードは訝しげに答えた。

「最近、一人で寝るのが不安で……見張られているような……」

リィンティルは謎の冒険者に下着を盗まれかけている。サザードは同情の視線を送る。

「まあ、構いませんが。どうぞ」

サザードは布団を広げ、差し招く。

そして二人並んで寝る。もちろん、何も無い。

……だが。

なぜか落ち着かなかった。その日はなかなか寝付けず、話などして就寝した。

サザードもリィンティルも魔術師である。

それゆえ、会話を録音しながら専門知識を戦わせた。

翌朝。寝付けなかったにしてはとてもスッキリした目覚めで、サザードは軽く昨夜の記録を再生した。

『では、はじめましょうか。まずは、炎の術の理論について話しましょう』

『ハァハァハァハァ。いけないわ、リィンティル！　あなたにはレイバードがいるのよ！　ああ、魔法剣士と魔術師の三角関係……イイ！』

「！？」

リィンティルが飛び起きる。その声は思い出したくもない、カオルのものだった。

「！？　！？　！？　馬鹿な！？　まさか、この声は一体！？　確かに部屋には僕とリィンティルしかいなかったのに！？」

『そうだな、私は炎の術に攻撃しか存在しないというのは嘘だと思う。厳密に言えば、出来るのは破壊だけではないはずだ』

『パシャパシャパシャパシャ！　イイ！　得意そうなリィンティル、イイ！　これが後の浄化の炎や癒しの炎といった理論につながっていくのね！』

パシャ、という音がなんなのかわからないが、なんとなくぞっとした。

更に声が増える。

『カオル姉！　お前何やってんの？　お前何やってんの！？　この変態！　ステルスの術を習得したのはこの為か！　何度も逮捕されるのはもうウンザリなんだよ！　俺が暴走する暇がねぇじゃねぇか！』

殴る音が続く。

しばらくした後、二人は出ていったようだった。普通に扉を開けて。

もちろん、サザードとリィンティルに扉が開いたという記憶はない。

『ようやく眠気が襲ってきたかもしれない。そろそろ寝る』

『私もです。お休みなさい』

ぷち、と録音機はそこで切れた。

「ああん、リィンティル！　呼んでくれてありがとう！　一緒にお食事できるなんて嬉しい！」

「あの、えと、参ったな、今ここで原作に関わるわけには……ただでさえリィンティルがなぜかレイバードたちと行動しているのに……」

大喜びする兄と、ぶつぶつと謎の言動をする妹。
二人の兄妹の後ろに、ニコニコした警官が立った。
容赦無く、サザードが告げる。

「おまわりさん、こいつらです」

「確かに声が一致するね」

「怪しげな術を使えるので、国家機関で厳重に取り調べてください」

「わかっているよ。国王の許可も得ているし、教会や魔術師ギルドの協力も得ている。常習犯罪者がそんな恐ろしい術を持っているなんて、恐ろしいからね」

「あ、あの？」

困惑するカオルに、サザードは昨日の録音を再生してみせる。カオルの顔色は一気に悪くなり、ユウはムーンサルト土下座とやらをして、警察に引っ立てられていく。
今度こそ、牢屋から出て来ませんように。まあ、新しくて危険な術の持ち主を解放するとは思えない。安心していいだろう。
不穏な会話の内容については、しっかり調べて連絡をしてくれる手はずとなっている。
やや不安そうな顔で見届けるリィンティルの肩を、サザードが叩く。

「今日は朝から飲みましょう」

「そうだな……！」

こうして、殺しあう運命を背負っていた二人は、仲間としての絆を深めた。

０３　素敵なオリ主の作り方

まず、あちこちの世界を見ます。

よさげな歴史や事件を見つけます。

時を逆行して、事件の初めからこっそり詳しく見ます。大体一回の調査に十回ほど逆行します。

様々な世界の事件や歴史を、自分の管理する世界の、漫画家や小説家の頭の中に流します。

その中のいくつかが連載開始します。

その中の幾つかがヒットします。

その中の幾つかが大ヒットします。

その中の幾つかの二次小説が乱立し、狂信的ファンが現れます。

ファンを一人一人見ていき、詳しく、執拗なまでに細部まで覚えている人をピックアップします。

狂信的ファンの行動の傾向を調べて、選びます。

選び方はこんな感じ。

こんな危険な事、関われるか。一般人として生きよう→？

ひゃっはー！　好き勝手生きよう！　原作なんて知るか→？

原作キャラでハーレムだー！　→？

原作通りに進めて、要所要所で関わっていこう→〇

原作にはかかわらないようにしよう（キリッ　↓○
原作通りに進めつつ、好きカプ作るぞー！　↓○

召喚して、希望を聞きます。大活躍できるよう、いっぱい能力をつけます。たまに世界ＶＳオリ主になったりするので、けちってはいけません。能力だけでなく、ＴＳや美貌などの彩りを添えましょう。

再度逆行します。

さあ、友達作りの時間です！　神々に丁寧にご挨拶し、いそいそと、かつ慎ましくオリ主を放流しましょう。

オリ主達の織り成す物語を楽しみましょう。

退屈、オリ主があんまり活躍しない、逆に世界を引っ掻き回しすぎて神様達との仲が悪くなった、時間逆行に気づかれそうなどの問題点が発生したら、時間を逆行してやり直しましょう。新しいオリ主を探してやり直すのもいいですが、オリ主の記憶を消して能力や命令を変えてみたり、逆にオリ主をそのまま逆行させれば、オリ主の方で前回の誤ちを繰り返さないようにしてくれるので便利です。

さあ、貴方もオリ主の織り成す原作改変を楽しみましょう。

今回の材料

カオル：ＴＳチートオリ主。女→男。姉。腐女子。（脳内）原作順守派。
ユウ：ＴＳチートオリ主。男→女。弟。原作多少改変しつつ順守派。全力でレイバード達が魔王を倒すのをサポートしようとする（マンネリ化してきたら魔王派についたりするけど）が、なぜか最終的には毎回聖魔同盟ＶＳカオル＆ユウになってしまうのが悩み。

おまわりさん：現代日本に産まれたカオルとユウにとって、絶対に逆らえない存在。ラスボス的存在。一般人には優しく頼もしく守ってくれる人。でも大抵冒険者の方が強い。

レイバード：魔術師物語の主人公。魔法剣士。後に魔王を倒す。
リィンティル：魔術師物語中ボス。マイナーだけどコアなファンが多い。魔王に唆され魔王側につく。後に倒される。

サザード：リィンティルの仲間。魔術師。参謀。
オルト：剣士。リィンティルの仲間。盗賊技能も持つ、情報通のおっさん。

原作者：神うぉっちの電波を受信し、世界の歴史を面白おかしく物語にして現代日本に発信した人。今回は魔術師物語。

０３　素敵なオリ主の作り方（後書き）

とっさに思い浮かんだので、ざっと書きました。
三話あわせて二時間半ぐらいで執筆完了。
息抜きにはいいですね。ここまで読んで頂き、ありがとうございました。
短編で投稿しようと思ったのですが、もしも続きが書きたくなっても連載に変更できないということで連載形式に。
またいずれ気が向けばこの設定で書くかもしれませんが、とりあえずここで最終回です。

うぉっちは絶対、神々に命を狙われては逆行で逃げてると思うw
そして過去に戻ったらぬけぬけと言うわけですよ、「友だちになろう、仲間に入れて」と。軽くホラーです。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n8207y/

【短篇集】ぼっちな神の原作介入～おまわりさん、こっちです～

2011年11月24日19時45分発行